

博物館だより

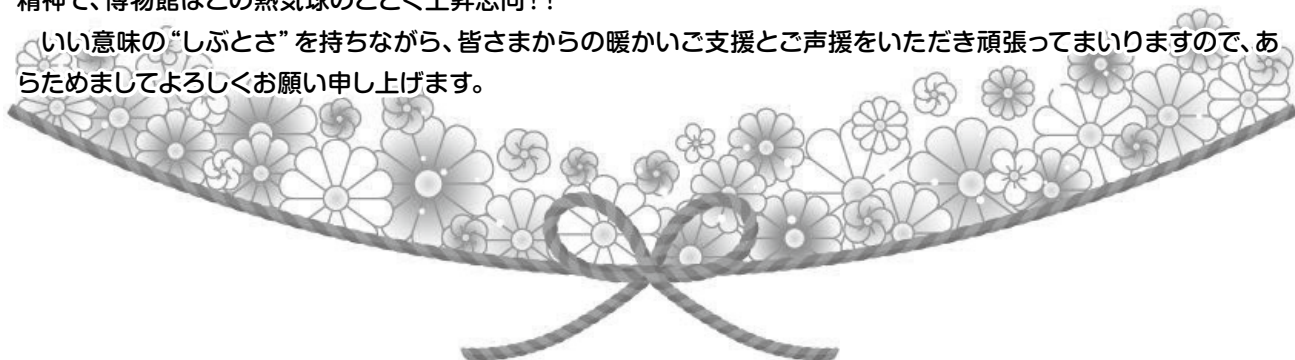
国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



2017年は開館20周年。ここまでこれを記念して様々なイベントを立て続けに繰り出しました。熱気球搭乗体験もその一つ。11月3日の「みのぶまつり」の呼び物として位置づけた企画でしたが、残念ながら、この日、雲一つない晴天だったにも関わらず、川べりのメイン会場では強風が止まず気球を上げることができませんでした。博物館に戻ってから、リバーサイドパークコートにて、風が収まったほんの少しの時間上げることができましたが、写真はその時の様子です。

さて、2018年は湯之奥金山遺跡総合学術調査から30年を迎える再びの節目の年。“転んでもただでは起きない”精神で、博物館はこの熱気球のごとく上昇志向！！

いい意味の“しぶとさ”を持ちながら、皆さまからの暖かいご支援とご声援をいただき頑張ってまいりますので、あらためましてよろしくお願ひ申し上げます。



「炭焼き」と「炭焼き窯」について

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

今年、当館は開館20周年を迎え、様々なイベント等を展開し、多くの皆様にご参加ご利用をいただくことができました。まだ今年度数ヶ月を残す中、これまでにご支援をいただいていた皆様に厚く感謝申し上げます。

さて、今回の話題は20周年とは直接的に関係するものではありませんが、当館が扱う歴史的な金山経営の実態解明の上で、避けて通れない課題であります。過日開催の当館運営委員会の中で、事務局より継続的な現地調査の状況を報告する中で、炭焼き窯の跡がいくつか見られたことを報告したところ、それらの性格付けについて問われ、「存在のみの把握であり詳細は今後の課題」とお答えしたところであります。

その炭焼き窯の跡についてですが、湯之奥・中山金山跡での平成初年の調査時に1基が確認され、部分発掘されていますし、近年調査を進めている茅小屋金山跡周辺や常葉金山跡周辺にも、ほぼ同様な構造をしたものが把握されています。また最近、醍醐山の山内でも似たものを見ることができました。

いずれも全体的な構造が、割石の小口積みを基本とし、燃烧室の平面形が直径約2mの大きさをしています。手前側には人がくぐり抜けようにも狭くて大変と思うサイズの焚口があって、燃烧室と通じています。また奥壁中央には煙出しのための小さな穴を見ることができます。

こうした現地に残る石積みの炭焼き窯の年代が問題になるのですが、中山金山跡A-20テラスで発掘調査されたものは、金山の稼働期と見られる遺構に対して、少し新しいという所見があるものの、具体的な年代までは明らかにされていません。

当湯之奥金山博物館のある旧下部町地域は「林野率は81.5%」（『下部町誌』 p.1019）で、「かつては優良木炭の主要生産地であった」（同書p.905）といわれています。しかしかつて、どのような施設、どのような作業行程によって木炭が生産されていたのか、が気になるところなのですが、「昔、製炭華やかなころ、（略）下部町

は峡南地方における最も生産の多いところであった。」（同書 p.1019）と伝える昔とは具体的にいつの話なのかも含め、約2000ページの分量を誇る『下部町誌』も炭焼きについてほとんど語っていません。

そこで目を旧下部町から外に向けてみると、「薪炭材では近世までは薪生産が主流であったようで、明治初年の物産調べには木炭生産の記録はなく、明治末頃から木炭生産がはじめられた。生産そのものは昭和30年代まで続けられ、燃料革命の結果生産量が減少した。」との早川町での事例（『山村史料の調査と成果—山梨県南巨摩郡早川町葉袋・樽坪・千須和一』中央大学山村研究会 2003）が目にとまりました。これによると江戸時代は、もっぱら焚き木（薪）が採られ、炭の生産は明治末頃以降、言い換えれば20世紀になってからだということです。

しかし「木炭は金属精錬には不可欠であり、（略）湯之奥金山遺跡の戦国～江戸時代の精錬・鍛冶にも大量の木炭を使用したものと思われ、その割に炭窯の数が少ないように思う。」（『湯之奥金山遺跡の研究』1992）との湯之奥金山学術調査時の所見もあります。炭窯は少ないのか、少なくないのか。また産金地での金精錬等に結びつくものがあるのかどうか。たいへん重要な問題となっています。

インターネットで炭焼きを検索すると、現代行われている炭生産の情報もいくつか見つかり、基本的な作業の流れはわかるのですが、炭焼き窯においては、当地で確認される石積みの形式は外ではなかなか見つかりません。当地でかつて使われていた炭焼き窯の跡にかかる実態の把握については、これからじっくり見極めていくべき課題になっているのです。



茅小屋金山跡周辺で見られた炭焼き窯

活動報告

20周年記念講演第3弾 笹本正治先生編

9月10日(土)

町民ウィーク初日の9月10日(土)の開館20周年記念講演第3弾。長野県立歴史館館長の笹本正治先生より、「武田氏と金山衆一戦国時代の湯之奥金山一」と題して、1時間半のお話を頂戴しました。タイトルで取り上げている内容や歴史やその背景について、もちろん十分に解説してくださいながら、それを今現在に照らし合わせて、現代に生きる私たちの立場に置き換えて、改め



て地域の歴史を考えさせるように展開し、歯切れのよいお話ぶりに、県内外からご来場くださった多くの方々も満足されていました。

また、講演終了後、急きょ先生のサイン会を開催。いずれのご要望にも笑顔で答えてくださった笹本先生。サインの際にもお子様から大人まで多くの質問が先生になげかけられていましたが、懇切丁寧に対応してくださっていました。



中央市立田富図書館出張講演

9月24日(土)



中央市立田富図書館では、生涯学習活動として「山梨力をつける」というテーマのもと、小松学芸員が講師要請され、金山の歴史について講

演いたしました。山梨県内でも、山に囲まれたわが町とショッピングセンターが建ち並ぶ地域とでは“山”や“金山”に対するイメージが大きく異なるらしく、大変興味を持って戦国時代の金山について、そして湯之奥金山について真剣に耳を傾けてくださっていました。地元から聴講者の方が後日、博物館にご来館くださったり、イベントにご参加くださいましたが、こうした講演活動を通して金山についてもっと知りたいと感じてくれる方が少しでも増えてくださると館としてはうれしいものです。

平成29年度第2回博物館運営委員会

11月14日(火)

博物館の運営方針や活動を審議評価いただく29年度2回目の運営委員会が去る11月14日(火)に開催されました。事務局側から、6月の第1回委員会での提言や課題への対応を踏まえた活動報告や運営状況、新年度の年間事業経計画の報告後、ご出席いただいた委員の先生方からは今後の館活動にとって大変参考となる貴重なご意見を活発に示していただきました。



気球に乗ろう！搭乗体験

11月3日(金)

岐阜県高山市おっばら自然体験センターの皆さんのご協力により、今回は「みのおまつり」とのコラボレーションで、波木井川河川敷で開催することとなっていた熱気球搭乗体験。雲一つない青空にのものと、待ち時間の間にバスケットに乗ってもらったり、バーナーを触る体験をしていただきましたが、いくら待っても会場河川敷の強風が収まることはなく、残念ながら搭乗体験は中止となりました。早朝よりおいでくださった

皆さまには大変申し訳なく、おっばらのスタッフさんも、気球が膨らむところだけでもみてもらいたいということで、中止決定後、博物館脇リバーサイドパークに場所を変え、風が落ち着いた約40分ほどのわずかな時間に何組かのお客様に気球に乗っていただきました。この中止に懲りずに多くの方々が楽しんでもらえる機会を今後また作りたいと思います。

金山遺跡現場確認調査、鋭意継続中！早川上流文化圏研究所との連携もスタート

当館では、湯之奥3金山をはじめ、周辺の金山について年間通じて継続的に遺跡現場の確認調査に赴きます。現在、国史跡の追加指定を視野に入れて調査を進めている内山・茅小屋金山はもちろん、総合学術調査が行われている中山金山遺跡も同様に現地調査をしています。中山金山遺跡については総合学術調査から30年が経過しようとしています。当時は存在しなかった調査手法や視点を取り入れた調査です。

9月2日(土)は、「甲斐金山遺跡 黒川・中山金山」として、20年前に国史跡指定を受けた日です。砂金掘り大会で灘の生徒たちを引率して下さっている野村敏郎先生よりご提案いただいた「金属探知機という総合調査時には導入しなかった手法で地表面調査をしたら何か違う見解が見えないか」という知的探究心から、今年は奇しくもこの日に中山金山調査に赴くことができました。調査の結果、古寛永1枚の発見と、さらに地表面は小さな金属ゴミが非常に多いということが改めて分かり、今後の遺跡保護に対す



野村先生と地表面調査

る検討課題も見えてきました。

また、隣町早川町には、“河内領”の金山を語る上では重要な金山が数多くひしめいています。そんな金山遺跡情報を早川上流文化圏研究所の皆さんの精力的なご協力をいただき、改めて金山の歴史に解明についての連携がスタートし、情報収集に努めております。

当館では、今後も湯之奥3金山のみならず近隣金山遺跡の調査・情報収集を引き続き進めておりますので、些細なことでも結構ですので、ご存知の方は当館まで情報をお寄せください。



常葉金山炭焼窯跡



9月2日 中山金山調査時



12月9日 中山金山露頭掘り跡X50には既に雪が積もっている

— 調査経緯 —

- 9月2日(土) 中山金山遺跡現場確認調査 金属探知機導入
- 9月20日(水) 内山金山中心テラスへ赴く新規ルート開拓のための内山金山現場確認調査
- 10月18日(水) 常葉金山現場確認調査 昨年12月に開催した見学会も含めて4回目の現場確認
- 12月5日(木) 展望箇所伐採のための山梨県林務との現場確認
- 12月9日(土) 中山金山露頭掘り跡の3次元レーダー測量調査

甲州市教育委員会共催事業・中山金山遺跡見学会

11月4日(土)

今年の見学会は、指定20周年を記念して、甲斐金山遺跡見学会と銘打って「黒川金山」「中山金山」の2金山の遺跡見学会を計画いたしましたが、10月29日の黒川金山遺跡見学会は台風22号により残念ながら中止となってしまいました。翌週の中山金山遺跡見学会は、天気にも恵まれました。両見学会とも、博物館と甲州市それぞれの窓口から県内外から20名以上のお申し込みをいただき、総勢約50人の大所帯。遺跡までの約2時間の急こう配な登山道を安定したペースで登っていきました。現場では、出月館長と小松学芸員から、黒川金山との比較説明として甲州市の飯島文化財課長から、それぞれ自然の中に眠る遺跡とその歴史の保存活用について詳細な

説明がありました。甲州市職員の方々も中山金山は初めてということで、参加者の皆さんと同様、大変興味をもって現場の状況をご覧になっていました。



常設展示ケース追加「都市鉱山 ―電子回路からとりだす 金っていいよね」



常設展示室の最終コーナーに10月下旬よりNEW展示が追加されています。テーマは“都市鉱山”。

東京オリンピック2020では、優勝者に授与される金メダルを、工業製品や生活家電からのリサイクル金で賄う「都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト」という取り組みが、身延町をはじめ全国各地で進められています。生活に密着した金の使われ方を垣間見ることができるのではないのでしょうか。

「山梨の遺跡展2017パネル展」巡回パネル展示

山梨県埋蔵文化財センターから「山梨の遺跡展2017パネル」を借用し、今年もエントランス壁面にて展示いたしました。今年、“土器に和歌が書いてあった”と大きく話題になったケカチ遺跡をはじめ、甲府城跡など県内の発掘調査状況がパネルで紹介されたもので、当館では約1か月間の展示期間でご来館いただいた皆様に見ていただきました。

「オリジナルじえるキャンドル作り」体験教室

12月16日(土)

昨年の同時期に好評だった体験事業「オリジナルじえるキャンドル作り教室」を今年もクリスマス近づくこの時期に開催しました。体験指導には、昨年の体験に参加したことからキャンドル作りのノウハウを習得した当館スタッフ・深沢暢之リーダーが担当。町内から約10名の参加者が集まり、素敵でかわいいジェルキャンドルを仕上げ、みな満足した様子で持ち帰っていききました。



もーん父さん、今年も地域のPRに東奔西走!!



ゆるキャラグランプリ2017



ゆるキャラさみっとin羽生

博物館、地域のPRにいそしんでいるもーん父さん。今年も大きなゆるキャライベントに参加して参りました。去る11月18、19日の2日間で行われた「ゆるキャラグランプリ2017」は会場が三重県。しかし、両日とも天気にも恵まれず大変寒い2日間でした。グランプリ翌週の「ゆるキャラさみっとin羽生」は埼玉県羽生が会場。こちらは

両日晴天に恵まれ、来場者数の主催者発表が両日でなんと33万人という人出で大いに盛り上がりました。また、これに限らず多くのメディアに取り上げていただいたもーん父さん。出演記録は次のとおり。もーん父さん、2018年も頑張ってください。引き続きの応援をよろしくお願いいたします。

もーん父さん活動記録

- 11月18日 東海テレビ ゆるキャラグランプリ中継に指名出演
- 12月1日 甲府CATV「情報MAXはやべん」イラストコンテストPR
- 12月8日 「UTYタウン6丁目」イラストコンテストPR

もーん父さんイラストコンテスト作品募集中!! 応募締切：平成30年1月9日(火)まで

入選作品該当者様には素敵なおもーん父さんグッズをプレゼント! 「もんちちファンなら全部持つてやるよ!」 そういわずに、あなたの「もんちち愛」白いキャンバスに展開してください。もーん父さん宛て年賀状でも応募可能。その際の宛名には「もーん父さん」の脇に「イラストコンテスト係」とお書き添えください。素敵な作品をお待ちしております。

湯之奥金山博物館 “ビックリ!砂金缶”(福缶2018) 限定発売!



毎年好評の「福缶2018 (限定50個)」が今年も登場、12月17日から博物館の店頭のみで販売しております。通常商品「ビックリ!砂金缶」は“自宅で砂金採りが楽しむ”ために砂金入りの砂が封入された商品です。皆様に福をもたらすよう祈りを込めた新年に向けてのみ販売の特別な

“福缶”、さらに開館20周年を記念していますので、通常の砂金入りの砂だけでなく、そこに純金のミニ小判と純銀のミニ小判が各1枚ずつ入って、さらにハッピーアイテムが盛りだくさん。何が入っているかは

開けてからのお楽しみ。ニューイヤーにちなんだ価格は2018円。昨年よりも少し早目の販売開始ですが、限定50個と数に限りがありますのでご希望の方は、お早めにご来館ください。

※純金ミニ小判、純銀ミニ小判は、全てハンドメイドのため、形・大きさ・重さはそれぞれ多少異なりますので、予めご承知おきください。

“何ごとも深めてみたら誰でも研究者！”

第6回「金山史・砂金研究フォーラム」開催のお知らせ

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する「金山史・砂金研究フォーラム」金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点など様々なテーマによるマルチプレゼンです。“継続は力なり”をAu会の皆様が体現してくださっているおかげで、第6回目を迎えることができました。来る2月3日(土)に開催決定！

“誰でも参加できる大人の研究発表会”に、多くの皆様にご参加いただくことで「砂金掘りの趣味を通じてこんなこと考えてるんだよ！」と

いうことを広く情報発信する場で、普段疑問に感じている“ちょっとしたこと”を質疑応答の時に聞くのも参加の仕方のひとつ！多くの皆様のご参加をお待ちしております。



昨年のフォーラムの様子

■期 日：平成30年2月3日(土) 午後1時～5時

■場 所：博物館映像シアター（博物館2階）

■参加費：500円（資料代として）

※発表時間は15分＋質疑応答5分＝20分

主催：博物館応援団Au会

共催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

どなたさまもお気軽にお誘い合わせのうえ、ご参加ください。参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局（0556-36-0015）まで。

発表予定者と演題 ※順番は確定ではありません。

出月 洋文（湯之奥金山博物館館長）「金山遺跡と炭焼窯について（仮）」

中村 軒一（愛知県）「坑道巡りと砂金旅」

久間 英樹（松江工業高等専門学校教授）「鉦山遺跡の3次元レーザ測定結果と絵図との整合性」

広瀬 義朗（神奈川県）「韓国慶州の球状金は砂金なのか？分析手法の検討」

福井 玲（岐阜県）「ディープラーニングによる砂金産地の同定」

野村 敏郎（灘中高地学教諭）「砂金採集道具の回収率検証実験第2回 スルースボックス」

宮坂 隆志（長野県）「高遠周辺の金山遺跡について（仮）」

岩井 一泰（東京都）「ギニアの砂金鉦山」

ポスターセッション

①鈴木 卓也（宮城県）「北上山地南部の産金と産鉄」

②福井 怜（岐阜県）「デジタルファブリケーションを用いたカッチャの製作」

③佐藤 卓生（山形県）「山形市馬見ヶ崎川流域に伝わる炭焼き藤太伝説と唐松観音」

20周年記念講演会第4弾 西脇康先生のご講演のお知らせ

博物館開館20周年を記念講演会第4弾は、貨幣史はもちろんのこと、文献史学者であり甲州金研究の第一人者でいらっしゃる西脇康先生にご講演いただきます！博物館の開館20周年のラストを飾る記念講演会。甲州金をシンボル展示とする当館だからこそ。ぜひご聴講ください。

- 期 日：平成30年3月4日(日) 13時30分～15時
- 場 所：博物館2階映像シアター（定員60人※聴講無料）
- 講 師：西脇 康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員、元早稲田大学講師）
- 演 題：「三金山と西河内領村々―江戸期湯奥村の悲願―」

20周年記念企画展 「こなしのしくみ～鉱山臼の形態分類～」

- 会 期：平成30年1月28日(日)～3月4日(日)
- 場 所：1階多目的ホール ※観覧無料
- 開催概要：「臼」。それは戦国時代の山金山を支える上で最も重要な鉱山道具。臼がなければ、そもそもあの硬い鉱石の中から金を採り出すことなど出来なかったのです。使用としている中、しかし、臼という名称だけでは分類しきれない様々な形態をそれぞれに持ち、そしてそのすべては唯一無二の一点モノなのです。そこにどんな謎が隠されているのか…。

黒川・中山の「甲斐金山遺跡」の総合調査が行われてから30年が経過しようとしています。これまでの研究で分かったこと、そしてこれから分かりそうなこと…「鉱山臼」の構造について改めて解説するとともに、臼をとりまく不思議と謎について皆さんと紐解いていきたいと思えます。

年末年始の開館日お知らせ

2017年12月27日(水)～翌年1月1日(月)までの間、年末年始休館です。
2018年1月2日(火)開館、3日(水)臨時開館いたします。
(1月4日(木)は振替休館日となりますので、開館日をお間違えないようご来館ください。)
開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

「チケットご購入のお客様先着200名様に新年干支おみくじかゴールドBOXハンドタオルをいずれかをプレゼント！売店では新年恒例の博物館オリジナル福袋もご用意していますので、お正月休みは是非遊びにいらしてください。」

編集後記

新年にコタツにでも入ってゆっくり読んでいただけるよう、年内お届けのために突貫編集いたしました。いろいろ情報が詰めこんでお知らせも満載です。20周年の節目の年もあと数か月。その間に開催される企画イベントも皆様に足を運んでいただけるよう鋭意努力！「金っていいよね」という言葉と同時に「金山博物館っていいよね」と言われるように。21年目もスタッフ一同頑張っ参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

博物館だより

第82号 平成29年12月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん 